

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 高校生花いけバトル全国選抜大会開催費負担金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き振興係 電話番号：058-239-3163(内115)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,027 千円 (前年度予算額：12,800 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	12,800	0	0	0	0	0	0	0	12,800
要求額	10,027	0	0	0	0	0	0	0	10,027
決定額	10,027	0	0	0	0	0	0	0	10,027

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

・本県花き産業は、市場規模の縮小とコロナ禍を要因とした需要の低迷によって、産業を取り巻く環境が急激に悪化しており、業務用や高年層に偏りが大きい現在の需要構造の改善が必要である。

・全世代のうち、特に花き消費が少ない若年層で花きの利用促進を進めるために、若い世代で関心を集める花いけバトルの定着を促進し、参加校を更に拡大しなければならない。

(2) 事業内容

・第4回全国選抜大会を開催し、花いけバトルの定着と大会の定番化を図るとともに、第5回全国選抜大会の出場校選出に向けて、審査員による各地区予選出場校の花いけでの表現力などを審査し、審査報告を基に選考委員会を開催し、大会出場校を15校(15チーム)程選抜する。

- ア 第4回高校生花いけバトル全国選抜大会の開催
 第4回大会を開催し、花いけの表現力を強調した審査を行い、競技性を高めることで、より多くの若年層の花き文化への関心の高揚を図る。
 (ア)期 日 令和6年8月1日
 (イ)会 場 ソフトピアジャパンセンター ソピアホール (大垣市)
 (ウ)出場校 選考委員会が決定した15校
- イ 出場校選出に向けたビデオ審査の実施
 全国で開催される各地区予選参加校による花いけ作品づくりの表現力等をビデオ審査する。
 (ア)審査員 3名
 (イ)審査対象 全国15の地区予選の出場校
 北海道、東北、茨城、関東、千葉、上信越、静岡、岐阜、近畿、
 広島、四国、香川、福岡、南九州、沖縄
- ウ 選考委員会
 選出された出場校候補の中から、出場する15校を選考委員の審議の下で決定。
 (ア)時 期 令和6年2月 (予定)
 (イ)選考委員 主催者が委嘱する審査員 15名程度

(3) 県負担・補助率の考え方

- 花きの活用により県民の健康で心豊かな生活の実現を目指す県条例の目的に沿った内容で、今後の消費拡大が期待できる若年層を対象としたものであることから、県の参画が妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	10,027	高校生花生けバトル全国選抜大会開催費負担金
合計	10,027	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ花き振興計画 (第2期)」の「花き文化の振興」に位置づけられる。

(2) 国・他県の状況

全国高校生花いけバトル実行委員会(会長：香川県知事)が、各地区予選を経て、決勝大会を香川県で毎年主催する全国大会。令和5年度で第7回の開催となった。

(3) 後年度の財政負担

花き文化の振興を担う高校生の活躍の場を設けるため、引続き県が負担する。

(4) 事業主体及びその妥当性

「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」は、「清流の国ぎふ花き振興計画 (第2期)」で花き振興施策の推進機関と位置付けられており、これまで「高校生花いけバトル花きの日

大会」やぎふフラワーフェスティバルなどのイベント開催実績を有することから、妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・高校生花いけバトルへの参加校が増加することにより、花と親しむ新たな機会が創出され、若年層への花き文化の普及定着を進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	終期目標	達成率
	(R2)	実績	目標	目標	(R7)	
①高校生花いけバトル本県地区予選への県内高校の参加数	14チーム	15チーム	20チーム	22チーム	24チーム	63%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・10月3日にぎふワールド・ローズガーデンで5校14チームの参加の下で「高校生花いけバトル花きの日大会」を開催し、岐阜県産花きを1/3以上使用した大会の様子を様々な世代に発信するために動画共有サイトによりライブ配信した。
	指標① 目標：24チーム 実績：14チーム 達成率： 58.3 %
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・10月16日にぎふワールド・ローズガーデンで9校22チームの参加の下で「高校生花いけバトル花きの日大会」を開催し、岐阜県産花きを1/3以上使用した大会の様子を様々な世代に発信するために動画共有サイトによりライブ配信した。
	指標① 目標：24チーム 実績：17チーム 達成率： 70.8 %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・10月8日にぎふワールド・ローズガーデンで9校22チームの参加の下で「高校生花いけバトル花きの日大会」を開催し、岐阜県産花きを1/3以上使用した大会の様子を様々な世代に発信するために動画共有サイトによりライブ配信した。
	指標① 目標：18チーム 実績：15チーム 達成率： 83.3 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	花き消費が少ない若年層を中心に「花いけバトル」の認知度を向上させ、参加校の増加による花き文化の定着を促進するために、本事業の必要性が高まっている。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	県内及び県外からの高校生花いけバトル参加校が着実に増加しており、事業の成果があがっている。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	企画運営者と連携した事業実施をすることにより、効率化を図っている。

(今後の課題)

・ 若年層への消費拡大を進めるに当たり、これまでの花本来の美しさや儂さを表現した「作品」の評価だけではなく、花いけに取り組んでいる学校や生徒の「熱意」を取り入れ、新たな花き文化への注目度や関心の高揚を図る必要がある。
--

(次年度の方向性)

・ 若年層からの注目度の高い大会とするために、花いけの作品づくりにおける所作、表現力を重視し、学校の取組や選手の熱意などを踏まえたの審査を行う。
--